

下がったり足がつったりして、なかなかDWに届きません。適正なDWを維持するためには、体重増加を抑えることも重要です。日本透析医学会のガイドラインによると、「最大透析間隔日の体重増加を6%未満にすることが望ましい」とされています。具体的には、DWが50kgの月水金透析の患者さんであれば、週初めの透析前体重が

$50\text{kg} + 50\text{kg} \times 0.06 = 53\text{kg}$ 未満
を目安にしましょうということになります。

体重増加を来たさないためには、Q1の質問の答えでも述べたように、減塩がもっとも効果的です。体内の塩分濃度は水1Lあたり塩8gで一定に保たれています。ですから、食事から8gの塩分を摂取すれば、体は本能的に1Lの水を欲し、それに抗うことはできません。体重増加が多くDWに到達しない患者さんは、まず減塩に取り組む必要があります。

(谷田秀樹/矢吹病院 内科・医師)

シャント

Q3 最近シャントのある右の腕が腫れてきました。以前よりシャント血管も太くなり、痛みは軽くある程度ですが、気になります。原因を教えてください。

A3 シャント血管が太くなるのは狭窄と血流過多が原因として考えられます。腕が腫れてきたことを併せて考えると、静脈高血圧症を併発していると思われます。この原因としてシャント静脈狭窄では鎖骨下静脈や中心静脈などの心臓に近い部分での狭窄も考えられます。これらはシャント血管造影や3D-CTなどの検査で狭窄部位を特定することができます。しかし狭窄がない場合もあり、この時はシャント血流量が多すぎる過剰血流と考えます。これはシャントエコー検査で血流量を測定することにより診断されます。

治療法は狭窄の場合、バルーンカテーテルを用いた血管拡張術(PTA)、ステント留置が行われます。過剰血流の場合はシャント静脈縫縮術や動脈縫縮術、血管形成術などで血流量の低下を試みます。これらの処置で改善しなければ、現在のシャントを閉鎖して、他の腕や下肢にシャントを作る必要があります。時間が経過し過ぎると処置に手間取ることがあり、またこのほかの原因があることも考えられますので、早めに主治医の先生に相談してください。

(古井秀典/田島クリニック・医師)